

これからのことを…4の(9)

●方丈記から(その8)



河合神出ご復元の雪の方丈庵

鴨長明のこと

鴨長明は下賀茂神社の正禰宜の息子として生まれました。18歳の時、父親が34歳で亡くなり、順風満帆に思えた生活が一転。それとその時代の源平争乱に輪をかけて次々と起こる天災(大火、辻風、飢饉、大地震)や人災(福原遷都)の中を生きてきた。

方丈記前半にその災厄の詳細を、自分の眼や耳や足を使って直近の出来事のように緻密に、今の新聞記者が驚くくらいの筆で持って書いていった。そして方丈記後半は打って変わって「すべて、世の中ありにくく、我が身と栖との、あだなるさま、また、かくのごとし。…」と書く。

世の中は生き難く、住む場所や身分に応じて心を悩ますことは数えきれないと。30歳過ぎに長年住んだ祖母の家と縁が切れた。長明は琵琶や琴の腕前に秀でていたし、和歌では当時の



方丈庵内部(ネットから)

後鳥羽上皇に認められ、新古今和歌集の編纂に関わったりした。本当は父の跡を継いで神職に就きたかったのに、親族との人間関係で苦しみ、その望みはかなわなかった。

結局、50歳で出家して大原に移り住んだが、その間20数年の語おほとんど書かれていない。

さらに、54歳には牛車2台をひき、日野の山中におよそ四畳半から五畳半の方丈庵を自分で組み立て住む。そこでの生活は長明に適していて、楽しんでいる様子が方丈記に綴られている。これらのことは何度も書いてきましたが、方丈記終章に入る前に、ここまでの中で心に残った部分を書こうと思います。今までのことを振り返って。

無常ではない、時を越えるもの

『ゆく河のながれ』で始まる方丈記は人間も住居も全て無常とうたっている。確かに目の前で起こる災害は目を覆うばかり。

いつまでもとどまり続ける常住のものは何一つもないように見える。

『また、養和のころとか、久しくなりておぼえず。二年が間飢渴して、あさましき事侍りき。…乞食、路のほとりに多

く、憂へ悲しむ声、耳に満てり』と。

大分昔(30年余り前)となったので、覚えていないと言いながら、声が聞こえなくなっても悲しむ声が耳の底に満ちていると書く。この飢餓と疫病が蔓延とした1181、82年に長明は自分で歩き、声さえ出せずに悲しむ、苦しむ民を自分の眼や耳で受けとめているように見える。これが長明の目線である。筆者はこの部分を方丈記の大きな魅力の一つと考える。

また、『いとあはれなる事も侍りき。さりがたき妻、夫持ちたるものは、その思ひまさりて、深きもの、必ず先だちて死ぬ。その故は、我が身は次にして、人をいたはしく思ふ

鴨長明



あひだに、まれまれ得たる食ひ物をも、かれに譲るによりてなり。…』と。これも何度も書きました。離れがたい、いとしい妻、夫を

持っている者はその愛する気持ちがまさって、深い者が必ず先立って死んでゆく。そのわけは相手を思う深い愛情故に、ごくごくまれに得た食へ物をも、その人に譲ってしまうからであるという。長明はこれらの人の情愛の行為の中に尊いものを見たのではないかと思います。それは無常ではない、常なるものといっている。

800年以上も前に書かれたものなのに、その行為はひとつも古びることなく、悲しいことなのに深く胸をうつ。

長明の質素な山中の生活

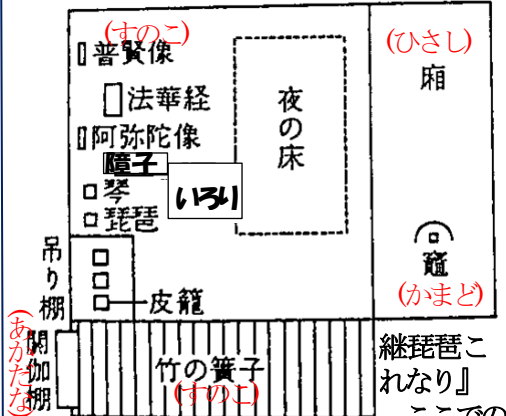
長明は日野の方丈庵に落ち着く。

『ここに、六十の露消えがたに及びて、さらに、末葉の宿りをむすべる事あり。いはば、旅人の一夜の宿をつくり、老いたる蚕の繭をいとなむがごとし。…その家のありさま、世

の常に似ず。広さはわづかに方丈、高さは七尺がうちなり。…』

年老いた蚕が繭をせつせと作って籠るようなもので、ここが気に入らねば、移動できるように掛け金で固定している。

『南、竹のすのこを敷き、その西に閻伽棚をつくり、北に寄せて障子をへだてて、阿弥陀の絵像を安置し、そばに普賢をかき、前に法華経を置けり。東の際に、わらびのほとろを敷きて、夜の床とす。西南に竹のつりだなをかまへて、黒き皮籠三合を置けり。すなはち、和歌、管弦、往生要集ごときの抄物をいれり。かたはらに琴、琵琶、おのおの一張をたつ。いはゆる折琴、



蕨のほとろ

ここでの生活は質素を絵にかいたようなものだったが、とても気に入っていた。本当に必要なものだけを手の届く範囲に置く生活。今のように電気もないから冬場はすぐ暗くなるし、長明のように筆を持つ人は明るいうちに、暗くなれば寝るしかないけれど。でも、寝られない時長明は『埋み火をかきおこして、老の寝覚めの友とす』と炭火をかきお

八幡まるごと館だより

2021年3月7日/136号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

こして暖まるのが楽しみであったという。冬には、たより上段の写真のように雪が積る。

蕨のほとろ(写真)が寝具の代わりとは、いくら、いろいろあって山からの薪や、炭火でも寒いことこの上なしと思える。今の生活に慣れた私たちには一晩でも難しい。

『もし、夜静かなれば窓の月に故人をしのび、猿の聲に袖をうるぼす。…』という。昔の友だちを思い出し、涙が。鳴く鳥の声を聞き、父母を思い出す。昼間はふもとに住む山守の10歳の少年が方丈庵にやってきて、ふたりでよく出かけたし、時にはひとりで琵琶湖くんだりまで出かける。健脚そのもの。春夏秋冬の景色を楽しむ気持ちの余裕さえ感じられる。

今のコロナ禍の中で誰とも話さずにとっても寂しい思いをされている方は多いと思う。筆者もずっと誰とも口をきかずにいたら、「助けて」という気持ちになることは容易に想像できる。

方丈庵での生活はシンプルだけれど、長明にとって「至福の小世界」とは浅見さんの解説だ。

長明さんの緩さがいいなあと

『もし、念仏もの憂く、読経まめならぬ時は、みづから休み、みづからおこたる。さまたぐる人もなく、恥づき人もなし。…』

読経にも気が入らない時は、気ままに休み、気ままに怠る。それを妨げる人もいないし、また恥づかしく思う人もいないという。仏道修行という点からは経験も何もないのでよくわかりませんが、この緩さ、いゝ加減さはいゝなあと感じます。

そして時には巨椋池を眺めて誰にも遠慮することなく琵琶を奏でる。長明にとって和歌と音楽はとても安らぎをもたらすものだった。

『今、一身を分ちて、二つの用をなす。手の奴、足の乗り物、よく我が心にかなへり。身、心の苦しみを知られば、苦しむ時封めつ、まめなれば使ふ。使ふとても、たびたびすぐさず。物憂しとても、心をうごかす事なし。…』使うといっても、たびたび度をこして使いすぎることはしない。疲れているからといって休んだとしても、心をあれこれ悩ますこともない

下記に続きます

＜1月にこんなことをしました＞

絵手紙講習会



10日 この日はパステルを。中々慣れないものであてもないこうでもないと言いつつ取り掛かれた方が多かったです。森本玲子さんは雪の結晶などの型を持って来て下さいました。それも6月ミニギャラリーで展示されるようです。今の所

参加者が半分程なので、展示物も少ないですが、



オカリナひまわり

22日 1月途中から半分ずつの参加にしています。偶数と奇数週に分けて。早く全員で練習出来たらいいですが、今年の4月で6年目にな

ります。指が動かないからと断念された方も多ですが、あきらめないで続けることで音が出るように。気持ちがすぐれない時にオカリナを手にし、その音に励まされることも。4月19日(月)吉井松里公会堂で演奏会依頼がありました。15日から全員で練習です。

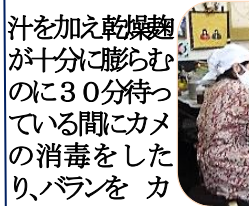
味噌づくり



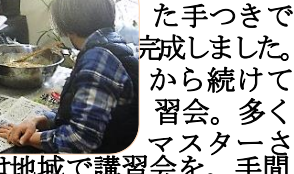
25日 今年は講師の方に来ていただかないで味噌づくりを。参加者4人の方は持って来られた煮大豆をビ



ール瓶で潰すという作業をされました。潰した大豆に塩と麴を混ぜ、煮



汁を加え乾燥麴が十分に膨らむのに30分待っている間にカメの消毒をしたり、バランをカ



メに合わせ切っ、濃厚塩水で拭いたりという作業を。皆さで、慣れ早くに2010年きた講の方が来て、お家で、中には地域で講習会を。手間は経験者なのた手つきで完成しました。から続けて習会。多くマスターされて、お家、中には地域で講習会を。手間がかかるけれど、じっくりと時間をかけて発酵、熟成を。1年待てばおいしい味噌が完成です。

八幡まるごと館 3月・4月の予定

休館 4月11日(日)

＜パソコン教室＞	毎週月曜日 10時～12時です
3月8日(月)10時～12時	パソコンを持って来て下さい。費用 300円(コーヒーつき)
＜オカリナクラフ ひまわり＞	オカリナ演奏吉井松里公会堂 4月19日(月)13時～
3月1日(月)13時～	参加費100円 8日、15日、22日、29日 練習日は月曜日だけに
＜絵手紙講習会＞	3月10日(水)午後1時30分～
	講師 森本玲子さん 参加費400円(コーヒーつき) 次回は4月14日(水)です。文化センターミニギャラリー展示は6月24日(木)～7月4日(日)の予定です。
＜歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N021＞	
3月18日(木)13時30分～	講師 出口修さん 参加費100円 月1回です
＜折り紙教室 第17回＞	水引で作るアクセサリー
3月19日(金)13時30分～	講師 出口宏子さん 持ち物 ポンド、ハサミ 参加費材料代は100円。
＜楽しい理科の実験 N037＞	前回に続き、サッカーボールを作ります
3月26日(金)13時30分～	講師 木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき)

断言している。これはいゝ。これを書き始めてから、時々長明さんが生活にひよいと出てきます。ここは長明さんっぽいかなとか、自分のいゝ加減さを認める時に多い。こういう緩さは好きです。こうあらねばならないでは続きません。生きてゆく上で、肝心な部分を教えてくれているように思います。

まだありますが、書ききれませんでした。素人で何もわかっていないのにここまでできました。時々声をかけて下さる方がおられ、本当に励みになっています。ありがとうございます。次号で。

＜あなごと・こんなごと＞

* まるごと館として大きな取り組みが全くできない1年間でした。今までのことを、考えて見るいゝ機会に出来たら。コロナ後に前の生活に戻るといふ風にはならないですから。それぞれの所で大変なことがあって、今はどなたもコロナ禍の当事者です。
* 東日本大震災、原発事故から10年です。今も住めなくて、つながりが途切れて苦しんでおられる方がたくさんおられます。当事者にはなれませんが、長明の目線で近づけたらと思う日々です。いつもただだと読みつらくてすみません。(うえたに じゅんこ)